

重点取組分野	令和 4 年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
授業改善	・相互学習参観や研修等の実践を通して、教師の授業力向上を図り、より意欲的に生徒が学習に自ら取り組み、学力を定着させるように支援します。・小中一貫カリキュラムをもとに基礎・発展・補充を取り入れた指導を適切に行い、生徒の授業評価を定期的に実施します。	・より教師の専門性と授業力向上を図るための相互授業参観を行い、コロナ禍が落ち着いてきた中で、外部での授業参観や研究会に参加する機会が増えたことにより、教師の学ぶ機会が増え、それが授業力向上につながった。生徒による教師の授業力評価も引き続き行った。	B
道徳・人権教育	・子どもの実態をもとに教科書等を活用しながら授業を行い、共通内容での全校一斉道徳授業を実施します。指針1「道徳の時間」の充実・行事や特別活動等に関連する内容を選択し、それぞれの学年の発達段階に応じて人権意識の高揚に努めます。指針2「人権教育の充実」	・ローテーション道徳を継続することにより、自身の学びに繋がっていると強く感じている教師が増えていた。今後も継続したい。・人権作文や平和スピーチコンテストを通じて、人権意識が高まっている。また、職員向けに、屋外生活者に関する研修を実施した。人権尊重について、生徒に考えさせている。	A
健康教育	心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を育てます。・体育祭や球技大会等の体育的行事を通して、スポーツに親しむ態度を育てます。	・コロナ禍が少しずつ緩和される中、体育祭を実施した。保健体育の授業や体育祭などの学校行事を通じて、心身ともに健康で、スポーツに親しむ態度を育てている。校内清掃が行き届いており、安心安全な環境を維持している。食育に関しては、より計画を立てて推進していきたい。	B
キャリア・平和教育	・職業講話や進路学習等を通して、自分の生き方について真摯に考えさせ、系統性をもって指導します。・平和の尊さを自覚させ、人間としての尊厳の感覚と、人間として他者と共感しあう力を育てます。・合唱練習を通して、表現力を高め、コミュニケーションを豊かにし、相互に理解する能力を育てます。	・コロナ禍で、職業講話を担ってくれる業者の変更があったが、生徒のキャリア教育を考え、より主体的に進路学習に取り組むたい。進路指導を1・2年次でも学年の分掌とらえ、各学年に応じた進路学習を当該学年で検討し、進路主任に助言や講話を求めながら進めていきたい。	B
いじめへの対応	・目の前の生徒を大切にしている意識を共有し、人権教育に関する研修を行います。・定例での学年連絡会での情報共有や学校カウンセラーとの情報共有の場を設定します。・校長をリーダーに、担任や生徒指導専任、特別支援教育コーディネーターからなるチームによる支援を進めます。	・生活アンケートや教育相談を継続して行った。講師を招いて特別支援の視点で職員研修を行い、支援が必要な生徒との関わり方を学んだ。生徒指導部、学年連絡会、特別支援教育校内委員会、いじめ防止対策委員会を定期的に開催し、情報共有や問題解決の話し合いを行った。	B
人材育成・組織運営(働き方)	・業務を組織的に進め、協力体制の充実さらに努めます。・全教職員が学校運営に前向きに参加し、組織的対応能力や各ステップスキルを向上させ、相互評価等を通じて互いに人材育成に努めます。・教職員が相互に啓発・連携・協働する学校運営に取り組みます。	・学校組織に関しては、各指導部の人員を調整しながら、次年度の人員を踏まえて体勢を整えていく。職員の業務量がより平均化されるように、規定の人員数を確定した後、各指導部長の意見をもらって、学校組織を確立していく。よりライフワークバランスが向上できる職員集団にしていきたい。	B
合唱教育 緑が丘6か条	・豊かな情操や共に創り上げる創造の喜びを育むため、「合唱教育」の充実を努めます。・自ら考え、判断、行動する自立心や規範意識を高めるため、「緑が丘6か条」への取組を推進します。	・コロナ禍が少しずつ落ち着き始め、合唱コンクールも大ホールで実施することができた。本校合唱部も関東大会に出場するなど、良い成績を残し合唱の緑が丘の名に恥じない成果を出した。今後は組織も変化することから、より実現可能な合唱コンクールのあり方を検討していきたい。	B
生徒指導	・教育相談を学級担任を中心に年間複数回実施するとともに、日常的な相談活動を全教職員で実施し、生徒理解をより深めるように努めます。・学校生活や登下校時の安全対策を、保護者・地域と連携・協力して推進します。	・教育相談の継続、生徒からの丁寧な聞き取りや、傾聴する姿勢をもった面談を心掛けた。学校長が掲げた「人を大切にすること」を常に学校全体に発信し続けた。・登校下校指導や災害時の引き取り訓練を行い、生徒間トラブルや事故の未然防止に努めた。	A
特別支援教育	・特別支援教育コーディネーターに加え、各学年に学年コーディネーターを配置し、学校全体で、連携した指導体制を組み、組織的に対応し、実践していきます。・別室対応生徒への支援を組織的に行います。・特別支援教育支援制度を活用し、地域の人材と協力して、支援が必要な生徒の対応を進めます。	・特別支援コーディネーターやスクールカウンセラーによるきめ細かい生徒保護者支援が年間を通して行われ、学年間の共有を確実に行うことにより、遅れの無い特別支援教育が行われた。難病を抱える生徒に対する特別支援教育支援員を適切に配置し、丁寧な支援を継続的に行った。	A
地域連携	・コロナ禍で地域行事が滞っているが、状況を見て、学校施設の地域への提供を実施し、まちとともに歩む学校づくりの推進を計画していき、ボランティア活動など、できることから進めています。	・体育祭や合唱コンクールなどの学校行事に近隣小学校校長を含めた地域来賓招待ができなかったが、管理職が地域の役員会や小学校での自転車安全教室、本校グラウンドでの野球大会、防災訓練や新春マラソン大会などに積極的に出向き、連合町会長等との交流を深めた。	B
ブロック内評価後の 気づき	・ブロック授業研では、ブロックで目指す「ポストコロナの小中連携を強化し、子どもの資質・能力を育てていく」をテーマに設定し、小中教員による授業参加の後、活発な意見交換をすることができた。 ・ブロック生徒会では、子ども会議で話し合った取組についてのその後の情報交換を通して、取組の進捗状況の共有を図った。		
学校関係者 評価	・生徒はほとんど落ち着いた学校生活を送っている。学習に部活動に熱心に取り組んでいる。 ・体育祭や合唱コンクール、委員会活動等、生徒が自分たちで行事を運営しようとする姿が見られた。 ・コロナ禍で地域行事への参加が途切れたが、1月の地域マラソン大会には多くの本校中学生が出走し、久々の地域行事に貢献できた。今後は地域ボランティアなどにも積極的に関わってほしい。 ・学校運営協議会が10月に発足し、地域活動コーディネーターが着任し、地域と学校のかけはしとなっている。		
中期取組 目標 振り返り	・新たな学校経営中期取組目標を掲げ、重点取組分野の目標の実現に向けて、全職員で第一歩を踏み出した。担当部署を精選し、職務分担の平均化に努めたことが職員の意識向上につながった。 ・冬季、コロナ禍再燃が危惧されたが、徐々に沈静化。学校活動も例年に戻る形となり安心して、学校運営協議会を立ち上げ、地域活動コーディネーターと新たなアイデアを生み出していきたい。		

重点取組分野	令和 5 年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
授業改善	・相互学習参観や研修等の実践を通して、教師の授業力向上を図り、より意欲的に生徒が学習に自ら取り組み、学力を定着させるように支援します。・生徒の授業評価を定期的に実施し、小中一貫カリキュラムをもとに基礎・発展・補充を取り入れた指導を適切に行います。		
道徳・人権教育	・子どもの実態をもとに教科書等を活用しながら授業を行い、共通内容での全校一斉道徳授業を実施します。指針1「道徳の時間」の充実・行事や特別活動等に関連する内容を選択し、それぞれの学年の発達段階に応じて人権意識の高揚に努めます。指針2「人権教育の充実」を図ります。		
健康教育	心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を育てます。・体育祭や球技大会等の体育的行事を通して、スポーツに親しむ態度を育てます。		
キャリア・平和教育	・職業講話や進路学習等を通して、自分の生き方について真摯に考えさせ、系統性をもって指導します。・平和の尊さを自覚させ、人間としての尊厳の感覚と、人間として他者と共感しあう力を育てます。・合唱練習を通して、表現力を高め、コミュニケーションを豊かにし、相互に理解する能力を育てます。		
いじめへの対応	・目の前の生徒を大切にしている意識を共有し、人権教育に関する研修を行います。・定例での学年連絡会での情報共有や学校カウンセラーとの情報共有の場を設定します。・校長をリーダーに、担任や生徒指導専任、特別支援教育コーディネーターからなるチームによる支援を進めます。		
人材育成・組織運営(働き方)	・業務を組織的に進め、協力体制の充実さらに努めます。・全教職員が学校運営に前向きに参加し、組織的対応能力や各ステップスキルを向上させ、相互評価等を通じて互いに人材育成に努めます。・教職員が相互に啓発・連携・協働する学校運営に取り組みます。		
合唱教育 緑が丘6か条	・職員年々入れ替わる中で、本校の伝統であった合唱教育も転換期に来ていると感じている職員が多い。共に学校行事を創り上げるという気持ちを大切にしながら、限りある人材を学校組織に上手に配置し、合唱コンクール等の学校行事を無理なく進める方向で、全職員で取り組んでいきたい。		
生徒指導	・教育相談を学級担任を中心に年間複数回実施するとともに、日常的な相談活動を全教職員で実施し、生徒理解をより深めるように努めます。・学校生活や登下校時の安全対策を、保護者・地域と連携・協力して推進します。		
特別支援教育	・特別支援教育コーディネーターに加え、各学年に学年コーディネーターを配置し、学校全体で、連携した指導体制を組み、組織的に対応し、実践していきます。・別室対応生徒への支援を組織的に行います。・特別支援教育支援制度を活用し、地域の人材と協力して、支援が必要な生徒の対応を進めます。		
地域連携	・コロナ5類移行をにらみ、且つ、教職員の働き方に考慮して地域行事の精選を学校運営協議会等で提案・協議し、ポストコロナの学校と地域の在り方を考え、学校と地域の関係において、可能なことを全力で取り組んでいきたい。		
ブロック内 評価後の 気づき			
学校関係者 評価			
中期取組 目標 振り返り			

重点取組分野	令和 6 年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
授業改善	c1		
道徳・人権教育	c2		
健康教育	c3		
キャリア・平和教育	c4		
いじめへの対応	c5		
人材育成・組織運営(働き方)	c6		
合唱教育 緑が丘6か条	c7		
生徒指導	c8		
特別支援教育	c9		
地域連携	c10		
ブロック内 評価後の 気づき			
学校関係者 評価			
中期取組 目標 振り返り			